

●降誕後第一主日

# 泉のほとり

今月の詩編「第九十七編」

神に従う人よ、

主にあつて喜び祝え。

聖なる御名に感謝をささげよ。



## わたしは主のはしためです

クリスマスは、天使ガブリエルによるマリアへの告知から始まります。ガブリエルはナザレのおとめマリアのもとに遣わされ、「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる」と語りかけました。戸惑い恐れるマリアに対し、「恐れることはない」と話しかけ、なお「あなたは身ごもつて男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない」と告げました。

マリアが「どうして、そのようなことがありえましょうか。私は男の人を知りませんのに」と問うたことに対し、天使は「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む……神にできないことは何一つない」と告げました。「神にできないことは何一つない」と。

「ダビデの王座を継ぐ、ヤコブの家を永遠に治め、その支配は終わることがない」と告げられたことが、「身ごもつて男の子を産む」ことから始まると告げられたのです。救い主が天軍を率い、世界を圧倒する力で降臨されることは告げられませんでした。人間的には、神の子と呼ばれる方が全能の力を示し、天から直接降つて来られればよいのではないか、と思うのです。神はそうされなかったのです。「身ごもつて男の子を産む」と告げられました。

マリアは「私は主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように」と答えました。そして、その身に起きる現実、受胎、十か月の妊娠、出産、そして授乳、体を洗うこと、おむつの処理、離乳食といった育児のすべてを、一日たりとも欠かさず行う日々が続くということでした。

「父ダビデの王座」や「永遠の支配」という輝かしい約束は、受胎から始まる日常の業、世の人々が数えもしない小さいこと

思われる業なくしては、その真の偉大さを知ることはいけません。マリアの日々の主婦としての業が、人類の救い主としての御業を成し遂げることに用いられたのです。これは、権力や華やかさを追う心では見出せない尊さ、真理を示すものではないでしょうか。

イエス・キリストは、天から直接降つて来られたのではなく、言葉も発せぬ「幼子」として生まれ、すべての時を私たちと同じく人として生きられました。

聖書には、三十歳頃までの主イエスの具体的な記録はほとんどありません。しかし、天の国を知っておられる聖なる方が、罪と偽り、妬みや憎しみに満ちた人間のただ中で、神のことばを蔑ろにし、口先だけで神を敬う人々の偽善を日々見聞きして生きるということは、どれほどの苦しみと忍耐だったことでしょうか。

「偉大な人となる」「ダビデの王座に着く」とは、それらすべての忍耐の時を通り、神の眼差しを知り、神と共に悲しみ、忍耐し、憐れむ時を生き抜かれたゆえのことなのです。いきなり十字架があつたのでも、いきなり王座があつたのでもありません。

クリスマスは、受胎から、幼子の時を経て、十字架と死と復活に至るまでの、主が地上のすべての時を生きられたことの始まりです。すべての時を生き抜かれたゆえに、主は人の罪を知り、罪に束縛されている人を知り、人の偽善と闇を知り、御子を与えられるほど世を愛された神を知り、その御心に従い、十字架の業を成し遂げられたのです。

「神にできないことは何一つない。」

すべてを通らせ、救いの御業をなされた天の父に、崇高なその神の知恵の高さ、尊さに「いと高きところには神に栄光あれ」と溢れる感謝と賛美を、この世の目には「小さい」と思われる、私たちのすべての日々を表して生きようではありませんか。

---

2025年度

教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

わたしたちのヴィジョン

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

---

《今日のお知らせ》

○今日は年末礼拝です。

○二月二日(金)一〇時から聖書通読会を行います。

今回はテモテへの手紙二を読みます。場所は地下ホールです。どうぞご参加ください。

《ぶどうの会より》

本日、ぶどうの会はお休みです。

《ルツの会より》

礼拝後、カナルームでルツの会を行います。

民数記二三章から学びます。聖書、讃美歌をお持ちの上、ご参加ください。

---

《教会事務会より》

一月六日(火)まで冬休みです。教会施設内に入ることができませんので、お忘れ物などございませんよう、ご注意ください。

# 《交 読 詩 篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。

（司・会）の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

【詩篇九十七篇】

主こそ王。全地よ、喜び躍れ。

多くの島々よ、喜び祝え。

密雲と濃霧が主の周りに立ちこめ

正しい裁きが王座の基をなす。

火は御前を進み

周りの敵を焼き滅ぼす。

稲妻は世界を照らし出し

地はそれを見て、身もだえし

山々は蛾のように溶ける

主の御前に、全地の主の御前に。

天は主の正しさを告げ知らせ

すべての民はその栄光を仰ぎ見る。

すべて、偶像に仕える者

むなしい神々を誇りとする者は恥を受ける。

（司・会）

神々はすべて、主に向かってひれ伏す。

シオンは聞いて喜び祝い

ユタのおとめらは喜び躍る

主よ、あなたの裁きのゆえに。

あなたは主、全地に君臨されると高き神。

神々のすべてを超え、あがめられる神。

主を愛する人は悪を憎む。

主の慈しみに生きる人の魂を主は守り

神に逆らう者の手から助け出してくださる。

神に従う人のためには光を

心のまっすぐな人のためには喜びを

種蒔いてくださる。

（司・会）

神に従う人よ、主にあつて喜び祝え。

聖なる御名に感謝をささげよ。

## 《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「主は羊飼ひ」

聖書 詩篇23章1〜6節

説教者 宮間 彰広兄

## 《次週の礼拝》

新年礼拝

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「囚われの身になつても」

聖書 ダニエル1章1〜9節

説教者 吉村 和雄 名誉牧師

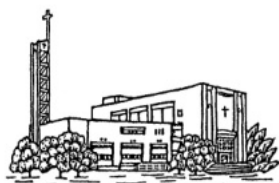
●主日礼拝（午前10時30分・礼拝堂）

讃美歌 110番 279番

説教 「主に信頼し、自分に頼らず」

聖書 箴言3章5〜8節

説教者 黄允湜 牧師





## 年末礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 107番 293番  
説教 「神のことばは必ず実現する」  
聖書 ルカ1章39～56節(新約 P.100)  
司式 山下 純一 兄  
聖餐司式 黄 允湜 牧師  
説教者 黄 允湜 牧師

前奏曲「神をたたえよ、我らキリスト者こぞりて」  
J.S.バッハ

### ○讃美歌107番

1. まぶねのかたえに われは立ちて  
うけたるたまもの ささげまつる  
いのちのいのちよ わがものすべてを  
とりてよみしたまえ
2. すくいのみめぐみ わが身に満ち  
かがやくみすがた ところに映ゆ  
たえなるわが主よ きみよりはなれて  
われはいずこにゆかん
3. きらめくあかぼし うまやに照り  
わびしき乾草 まぶねに散る  
こがねのゆりかご にしきのうぶぎぞ  
きみにふさわしきを
4. この世のさかえを のぞみまさす  
われらにかわりて なやみたもう  
とうときまずしさ 知りえしわがみは  
いかにたたえまつらん

アーメン

### ○讃美歌293番

1. 知恵とちからの もとなる神よ  
にぶくかよわき このしもべにも  
かみのちからと ちえとを賜え
2. 地には住めども 神の子なれば  
この世のことに 愚かなりとも  
父のことには さとからまほし
3. なやめるときも よろこぶ時も  
ひとしく神の めぐみを思い  
みいつくしみを いかでか忘れん
4. したしき友は 離れさるとも  
うからやからは よし疎うとも  
まことの父の 愛ははなれじ  
アーメン

聖餐曲「主キリスト、神のひとり子」 J.P.スウェーリク

後奏曲「もろびと声上げ」 Z.ガルトーニ

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。